

長明方丈石は日野村のひがし五町許、外山の山腹にあり、石床三間四面高貳丈許、一説に名を千人石といふ。「左

は笠取炭山の往還なり、此地甚だ絶景にして、遠近の佳境一眼の中に遮る、地勢の風景方丈記にくはしければこゝに略

す。峠のひがしに巖の中より清泉涌出る所あり、炎暑の節樵夫の舌を潤はせんがため、弘法大師此巖を穿給ふとぞ」

東鑑に曰、建仁元年十月十三日鴨社人菊太夫長明入道〔法名蓮胤〕依_二雅_三経朝臣之_一拳_一此間下向奉_レ謁_二将軍右大臣実朝

公_一。云云。

方丈記に曰 住家は則浄名居士の跡をけがせりといへども、たもつところはわづかに周梨盤特が行にだにも及ばず、

もしこれ貧賤の報のみづから悩ますか、将又妄心のいたりてくるはせるか、其時こゝろ更に答ふることなし。たゞ

傍に舌根をやとひて、不請の念仏兩三反を申てやみぬ。時に建暦の二とせ弥生の晦日頃、桑門蓮胤外山の庵にして

これをしるす。

月かげは入山の端もつらかりきたえぬ光りを見るよしもかな

長

明